

未来を創る子ども達に、教育と癒しを

シリア北部、3~7歳が通う、100人規模の幼稚園。5クラスで、スタッフは10人。  
シリア国内に国連などの支援が入ってきてはいますが、対象は小中高のみで、幼稚園は入っていません。そのため、この園には、どこからもお金が全く入ってこない状況で、先生達の給料が支払われておらず、先生が去ってしまう可能性があります。しかも、一度、閉鎖してしまえば、再開するのが難しい状況でしたが、皆さんのおかげで、無事に閉鎖を食い止め、子ども達が安心して学ぶ場所を守れました！



7,482\$

先生のお給料、学校のメンテナンス、ストーブの燃料、筆記用具



幼稚園を支援する理由

【戦争によるトラウマからの心理的な支え】  
【学校に通う習慣を身につけ、基礎を学ぶ】  
そのために、幼稚園は大きな役割を果たしています

どうして幼稚園の支援が重要なんですか？

戦争の日々で苦しんだ子ども達に対し、大人達もまた疲弊しており、子ども達へ十分なケアができるだけの心の余裕がありません。幼稚園は子ども達が心を解放できる安心できる場所なんです。また、不安定な日々の中で教育の重要性が忘れられ、学校に行かなくなった子ども達もいる中で、教育の基礎に触れることが大きな意味を持っています。教育を受けるタイミングを失った子ども達が、「今更学ぶことは恥ずかしい」と学校に戻らないということも起こっているからです。「学校って楽しい!」まずはそう感じてもらえるような場所が必要なんです。



戦火で止まっていた学校を再開

パートナーNGOから、シリア北部にある小学校が、非常に困窮している状況を開き、緊急的にストーブと燃料を送りました。  
6~12歳の子ども達が400人ほど通う小学校で、スタッフは15人。  
シリアの冬は寒く、ストーブと燃料がないと教室はあまりに寒く、学校に通うことを諦めてしまう子ども達がいるほどなので、越冬支援は重要な意味を持ちます。



1,000\$

ストーブと燃料、筆記用具

先生からのメッセージ 世界から見離された厳しい環境の中で教育を続ける先生達への大きな支え。

皆様のご尽力に、温かなご支援に、言葉に表せないほどに、とても感謝しています。世界から見放された、とても厳しい環境の中で、それがどれほどのものか、皆さんに分かっていただけるでしょうか！  
先生達の給与支援は、物価が高騰するシリアの中で、先生を続けながら生活するために不可欠なものです。この一年間、その分の予算を得て、厳しい環境で教育を続ける先生の貢献に報えられることは、どれほど感謝していいかわからないほどです。そして幼稚園がなければ、子ども達は教育を受けることなく、家の中でじっとしているだけだったでしょう。皆様のご尽力、本当にありがとうございます。  
Zilal先生(ZILAL幼稚園)



シリアの子ども達に勉強机を



今回からトルコ国内にあるシリア人補習校への支援を始めました。  
トルコでは、1年ほど前からアラビア語で学ぶシリア人学校が、トルコ政府により閉鎖されています。NGOが行っていたシリア人の子ども向けの教育支援も禁止になりました。シリア人の子どもも、トルコ人の子ども達と同じトルコの学校に通うことが義務付けられたのです。  
トルコ語の語学力が、学力に強く影響するようになり、授業についていけなくなって退学したり、イジメなど様々な理由でトルコの学校に通わせたくない親、通いたくない子ども達も出てきています。  
そうした状況を受けて、トルコ政府が建物を提供し、NGO[Education Without Border]が運営している補習校があり、土日に、アラビア語・トルコ語・数学などを学べます。場所はシリア国境の近くでシリア人も多いトルコ南部の街ガズィアンテップ。  
子ども達は、幼稚園から小学校高学年くらいまでの85人、4クラス。  
トルコの学校で打ち解けるために必要なトルコ語のレッスンや、基礎学力を身につける上で、とても大切な場所になっています。

1,500\$ 勉強机

先生からのメッセージ



勉強机という、素晴らしい贈り物をありがとうございます。子ども達が地べたに座って学んでいた環境に困っていたのですが、理想的な教室で学ぶことができるようになりました。私たちは、シリアの子ども達がトルコの子ども達と打ち解け合えるようできることを全力で取り組んでいます。是非近い将来、皆さんがこの学校に来ていただければ幸いです。皆様のご協力に、心からの感謝を込めて。  
Ahmad Ismail 先生(Yavuzlar学校)

ツアという形ではありませんが、現地訪問ができる体制は整えていく予定です。授業体験やシリア人家庭への訪問などができればと考えております。ダンス・日本文化紹介・折り紙などご自身のできる特技で、子ども達と触れ合っていただければ！子ども達のやる気を引き出すため、成績優秀者向けに筆記用具・絵本などのプレゼントを募集する企画も検討中です。  
ご支援者様提供のキットバス(クレヨン)で子ども達が手形をつけたり、字を書いたり。日本語で名前を書くこと、「私も!」と行列ができるほどでした。



Piece of Syriaは、「シリアを行きたい国にする」を目的に、シリアの子ども達への教育支援・日本での平和教育を行なう団体です。  
団体名称は、一人ひとりの力を合わせ「ひとかけらをひとつなぎ」にし、紛争によってパズルのPieceのようにバラバラになってしまったシリアを再びPeaceにしていきたい、という想いを込めました。

「シリアの今と昔」を伝えることで、「当たり前」の中にある平和の大切さを知り、戦争前のシリアを知ることでより身近に感じてもらう写真展や講演は、日本全国から好評を得ています。「他からの支援がない地域」でのシリアの子ども達への教育支援を継続的に行なうことで、シリアの復興の主体であるシリアの子ども達が、教育を受けていない「空白の世代」になることを避け、未来を築く手助けをしています。

世界を変えるのは、いつもたった一人の想いから。想いを持った子ども達を育み、未来に希望を持てるきっかけを届けていきます。

皆さんとだから届けられる支援

2011年から始まったシリアの戦争は、非常に複雑です。  
一般的にメディアで伝えられている「シリア政府の暴力」説と共に、騒乱前からシリア政府を転覆させるために他国からの干渉があったという専門家の指摘もあり、何が「真実」なのか、聞く人によって変わってしまうかのようです。  
シリアの人たちの想いを知るため、100人を超える国外に住むシリアの人たちや支援団体から話を聞くことにしました。そこで分かったことは、私たちと変わらない「普通の人たち」が難民となっていたこと、そして、彼らは難民として良い生活を求めているわけではなく「戦争が終わって故郷に帰ることを求めている、ということでした。様々な国や組織が介入し、長期化してきた戦争ですが、2019年を迎える今、やや落ち着きつつあります。ISの勢力が衰え、反政府派は北部イドリブ・アレッポ郊外にまとまっています。最もシリア難民を抱えるトルコは、シリア国内に軍を侵攻し、その中にインフラ・仕事を作り、シリア難民の帰還を促そうとしています。「世界最大の少数民族」と言われるクルド民族が、ISを撤退させた場所に領地を広げていますが、今後トルコ軍との衝突がある可能性があります。反政府派の占領地についても、まだ先は読めませんが、「シリアの他地域から数十万人が避難してきている」と現地パートナーから聞いています。  
Piece of Syriaは政治的・宗教的な意図に与ることなく、人道的な立場で、最も支援が必要な場所に支援を届けることを大切にしています。私たちがシリア国内で支援している幼稚園が、イドリブ・アレッポ郊外の反政府派の地域にあるのは、国際組織や大きなNGOでは、政治的な理由で支援できない地域だからです。  
皆様お一人おひとりという個人からの寄付だからこそ、届けることができている。規模は小さくとも、大きな支えとなる活動をきちんと継続できる形でしていくことを、今後も大切にしていきます。

(文責: Piece of Syria代表 中野貴行)

収入		支出	
Readyfor	124.5万円	現地活動費	22万円
写真展でのご寄付	15万円	システム手数料	28万円
Wedding Donation	9万円	リターンなどの経費	
手渡しなどのご寄付	11.5万円		
			9872\$ (110万円)

## Wedding Donation

結婚パーティーの参加者にお贈りするプチギフトに、代表の中野が選んだのは「教育支援」。

トルコで、結婚式と同じ町に住むシリア難民を招待したご夫婦がいる、という記事を読み、それを参考に「幸せな日を共有する」という想いで、パーティー参加費からPiece of Syriaの支援する学校への寄付行ないました。お見送りの際にお渡ししたポストカードには、QRコードとURLが書いてありそちらにアクセスすると新郎新婦と現地の子どもや先生からの感謝のメッセージ動画が見れるようになっています。

つまり、パーティーに参加してくれた方々のおかげで、シリアの子ども達が教育を受けることができる「一緒にHappyを届ける」という贈り物です。参加してくれた友人からは「今までですと、こうした活動に参加できないことが情けなくて、悔しかったんです。今回、ずっとやりたかったことに参加させていただいて嬉しかったです！」との感想をいただきました。



## 講演・報告会



「シリアの人たちが今、いかに困っているか」ということは多く伝えられるのですが、「戦争が起る前のシリアは、どのような国だったのか」について、耳にする機会は非常に限られています。シリアの人達がかつて、どのような日常を送っていたかをお伝えすることで、シリアを身近に感じてくださり、平和の大切さに気づき、私たちの支援の重要性について知っていただく機会を創っています。

小中高校、大学、社会人向けなど様々な場所でなっていますが、「また来て欲しい」と毎年声をかけて下さることも多いです。報告会などのイベントスタッフへの参加や、講師派遣のご依頼がありましたら、是非お声がけくださいませ。

東京の青山で行われたシリア難民シェフ、ナーゼムさんのレストランのプレオープンをお手伝い。シリアについての情報提供、写真の展示、冊子作成などで協力しました。



## 私たちのこれから



NPO法人に申請  
ジーニョが関わるきっかけ。  
今、こんなことで関わっている、という話。

## パートナー-NGO代表からのメッセージ

### 教育は未来を創るもの。 平和と安心を感じられる環境で教育を。

シリアの現実とはとても厳しいです。長く続く戦争に、人権が蹂躙され、砲撃のリスクがあります。しかしそれでも、教育を望む声は止みません。

その中で、日本の皆さんは私たちを見捨てることなく、シリアの子ども達をご支援し続けてくださっています。

Piece of Syriaのメンバーが声を上げて、非常に多くのご寄付を集めていただいております、シリアの子ども達が無事に教育を受けることができている。

温かなご支援を下された皆様一人ひとりにお礼を伝えられないのは、心苦しくはありますが、より良い活動をするので、お礼に返させていただければと存じます。

教育を続けられる、ということは、シリアの平和を創る世代を築くということと同じです。戦争によって影響を受けた子ども達は、安心できる場所を求めています。皆様が支えてくださった幼稚園こそが、心の傷を癒し、平和と安心を感じられる場所に他なりません。教育は平和であり、未来であり、新しい世代です。是非、これからも共に、新しいシリアを築いていきましょう。

A Little Help is Enough代表  
**Usama Ajjan**

元英語教師で、アレppo大学 英語学科卒業。在学中、日本語を学ぶ。卒業後、小中高それぞれの学校で英語教師として働く。現在はトルコに住みながら、シリア国内の教育支援を行なう【A Little Help is Enough】代表を勤める。大きな団体からの支援もなく、時に私財を投げ打って活動する姿に感銘を受け、Piece of Syriaとして協力関係を結ぶ。



### Special Thanks

【スタッフ】小林 郁乃、武田 祐輔、石井 貴幸、中野 貴行  
【イベントスタッフ】西森 佳奈、倉永 真紀子、北山 マキ子、小林 清  
【後援】イベントスペース「谷六Village」、アラビヤレストラン「月の砂漠」、Elite Ballet Studio、シリア料理店ナーゼム、Tai You Project  
【Special Supporter】陣崎 草子さん、成瀬 久美さん、古井 美千子さん、森川智貴さん、Wedding Donationにご参加下さった方々  
【応援メッセージ】永崎裕麻さん、入江謙行さん、田村雅文さん、田村美津子さん、大川梨惠さん、廣瀬 元宏さん、吉竹めぐみさん、半澤 節さん

And all of you...

## Piece of Syria



http://piece-of-syria.org  
✉ piece.of.syria@gmail.com  
pieceofsyria.thebase.in



ゆうちょ銀行  
口座 ビースオブシリア  
店名 408(ヨンゼロハチ) (普)4328753

**写真展・講演・取材** などのご依頼は .....  
サイトまたは上記メールアドレスよりお願い致します。振込みにて、ご寄付をいただいた場合も、報告会などのご案内をさせていただきますので、ご一報いただければ幸いです。



活動報告書  
2019年3月

# شكراً ありがとう。

わたしは Bisan、5 才です。  
アレppoの町からにげてきました。

みなさんのおかげで、  
あったかいようちえんで、  
べんきょうできています。

みなさんのやさしさがなかったら、  
ようちえんにいきませんでした。  
ほんとうにありがとうございます。



## 日本での「伝える」活動

### クラウドファンディングの実施



2016年から始まったクラウドファンディングも3年目です。継続的にご支援して下さる皆様、新たにご支援して下さる皆様に支えられ、今回も目標金額を上回るご支援が集まりました。本当にありがとうございます。

### シリアとイランの写真展

「ずっと戦争をしているか」のような危険なイメージのあるシリアとイラン。ニュースでは写らない、そこに住む人たちの日常を写した写真展を実施しました。

代表 中野が青年海外協力隊時代(2008-10年)に過ごしたシリアの日常と、家族旅行・スノボ旅行にイランを選ぶほどにイラン好きなスタッフ 西森のお洒落なイランのカフェの写真と並べて展示しました。

ご来場者の方からは「180度、世界の見方が変わりました」「知ることの大切さを改めて感じました」との感想をいただきました。



Piece of Syriaを通じてシリアの子どもたちを支援してくださっている皆様、写真展に足を運んでくださった皆様、ありがとうございます。

どうすればより伝わるか...そんなことを考えながらこれからも活動を続けたいと思っています。



会場は、シリア支援団体サダーカの谷村さんの運営する谷六Village。期間中には、日本国内の通信・定時制の高校生支援を行なう認定NPO法人D×P理事長 今井 紀明さんとのクロストークや、アーティストのMAKIKO CREATIONのライブペインティングを行ないました。



Piece of Syriaを通じてシリアの子どもたちを支援してくださっている皆様、写真展に足を運んでくださった皆様、ありがとうございます。

どうすればより伝わるか...そんなことを考えながらこれからも活動を続けたいと思っています。

